



長崎大学 ダイバーシティ推進センター

Vol.39

NEWS LETTER

おもやり通信

2020.2発行



ランタン フェスティバル

第4回「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」受賞者研究発表会および授与式を挙

1月8日（水）、文教キャンパスにおいて、第4回「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」受賞者研究発表会および授与式を挙

行しました。
同賞は、優れた研究成果を挙げた長崎大学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、学術研究の将来を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進を目的として、平成28年度に創設されたもので、今年が第4回となります。表彰は、50歳以下（平成31年度4月1日時点で50歳未満）の助教以上の女性研究者で、かつ、男女共同参画を推進する活動に貢献している、もしくは推進の視点を持つ方が対象となり、優秀女性研究者賞は、国内外において学術上優れた研究成果を挙げたことが認められた方、優秀女性奨励賞は、国内外において学術上優れた研究成果を挙げることが期待されると認められた方に贈られます。

【優秀女性研究者賞】南保明日香（感染症共同研究拠点 教授）

【優秀女性奨励賞】金禧珍（総合生産科学域水産学系 准教授）

当日は学長、理事、副学長、学部長等列席のもと、受賞者による研究発表会に続いて授与式を執り行い、学長から受賞者に、表彰状、研究費として副賞の目録、記念の盾が贈られました。



写真左から、吉田センター長、河野茂学長、南保明日香教授【優秀女性研究者賞受賞】、金 禧珍准教授【優秀女性奨励賞受賞】、福永博俊理事、中島ゆり副センター長

上野千鶴子氏にご講演をいただき、キックオフセミナーを開催しました！

本学が文部科学省の補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に採択され、新たな事業をこれから展開していくにあたり、令和元年12月16日（月）に中部講堂にてキックオフセミナーを開催しました。認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長上野千鶴子氏に「男女共同参画はゴールかツールか？」の演題で講演をいただきました。

上野氏からは女性を取り巻くこれまでの変遷や現状、今後女性が世の中でどのような役割を果たしえるのかということをお話いただきました。当日は多くの方にご参加いただきました。



高田明氏を招き、市民公開講座を開催しました



令和元年12月10日（火）に株式会社A and Live代表取締役高田明氏をお迎えして、市民公開講座を開催しました。



「夢を持ち続け日々精進～変える勇気と行動を～」と題し、ご自身の半生を振り返りつつ、日々この瞬間を大事にし「今を生きる」ことでダイバーシティという多様性の品質を高めることができ、それが変化を起こし、人生を豊かにすることができるお話いただきました。

多くの方にご参加いただき、夢を持ち続ける姿勢に強く感銘を受けた、いくつになってもチャレンジするのに遅くはない、勇気もらった、など、前向きな内容や今後の参考とした多くの意見をいただきました。





女性教員海外派遣制度 利用者の声

オーストリア、ウィーンで開催のEuroEcho 2019に参加させていただきました。EuroEchoはもともヨーロッパの心エコー図の学会でしたが、最近ではEACVI (European association of cardiovascular imaging)と呼ぶようになっておりCTやMRIなども含めた循環器領域の画像診断の学会に発展しています。



病院 心臓血管外科
尾長谷喜久子 助教

今回は3D経食道エコーを用いた三尖弁の解析に関する発表でした。スライドをアップロードしても動画が動かず、壇上でPCをつないでの発表となるアクシデントに見舞われましたが、問題なく終了し、座長の先生には好意的なコメントをいただきました。今後も当科で得られた知見を広く国内外で共有できるよう努力していきたいと思えます。



この度、女性教員海外派遣制度による研究助成を受けて、アメリカへの渡航調査を行わせて頂きました。多忙な業務のなかでの渡航でしたので、1週間という短い期間ではありましたが、調査対象者への貴重なヒアリングを実施するなど、現地調査でしか得られない資料を収集でき、研究を大きく進展させることができました。



教育学部 榎景子准教授

こうした学内の女性教員向けの制度があることは、学外の制度以上に、チャレンジングな研究課題に取り組む意欲とチャンスにもつながりやすく、ひいては、その後の研究者人生を励まし飛躍させるきっかけになると感じました。ご支援いただきましたダイバーシティ推進センターの皆様には心より深く御礼申し上げます。



女性研究者英語論文作成支援 利用者の声

着任して初年度に限られた研究予算の中で応募することになりましたが、まとめていた英語論文をネイティブ校正に申請いたしました。この論文は気候変動政策における企業の対応に関する研究内容でタイムリーな発表が要されるものでしたが、適期なサポートにより、論文のとりまとめやジャーナルへの投稿までを早めることができました。ご支援について改めて感謝いたします。



環境科学部 菅宣希
(ソクサニー)准教授

ダイバーシティ推進センターの女性研究者サポートプログラムは新たな支援項目を加え、さらに発展的で包括的な女性研究者支援に取り組んでいると知りました。私を含め多くの女性研究者にとってこころづよいものであると思います。引き続きよろしくお願ひします。

今年度の目標は自身の研究成果と研究指導している大学院生の論文を国際誌に投稿すること。こんな願ってもない支援を受けられる絶好の機会を逃すことなく論文をまとめよう！制度のお蔭でモチベーションが上がりました。研究成果を国際的学術雑誌に発表することは、科学技術の向上や普遍的知識体系の積み上げに貢献するとても重要なステップです。



医歯薬学総合研究科
門脇知子准教授

しかし、論文作成に集中できる時間の確保は厳しいのが現状です。英語論文作成支援をいただいで、経済的にはもちろんのこと、時間の節約という意味でも大変ありがたく思いました。本学の国際的認知度向上に貢献できるような論文発表を目標に、今後も研鑽に努めたいと考えています。

日頃よりダイバーシティ推進センターの運営に、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
センター職員一同、今後も力を尽くして参りますので、引き続きよろしくお願いいたします。

編集・発行 国立大学法人 長崎大学ダイバーシティ推進センター
(愛称:おもやいセンター)

〒852-8521 長崎市文教町1-14
TEL: 095-819-2889 FAX: 095-819-2159
E-mail: omoyai@ml.nagasaki-u.ac.jp HP: <https://www.cdi.nagasaki-u.ac.jp>

